



2014年3月期 第2四半期決算概要

ルネサス エレクトロニクス株式会社

2013年10月30日

代表取締役社長兼COO 鶴丸 哲哉



本日のご説明内容

- I. 2014年3月期 第2四半期 決算概要
- II. 2014年3月期 第3四半期 業績予想

エグゼクティブサマリ

I. 2014年3月期 第2四半期 決算概要

- 半導体売上高は、例年第2四半期にピークを迎える季節性要因もあり、前四半期比9.6%増の2,077億円
- 営業損益は、前四半期比11億円増の109億円と、これまで実施してきた構造改革効果もあり、3四半期連続で黒字を確保

II. 2014年3月期 第3四半期 業績予想

- 半導体売上高は、前四半期比8.5%減の1,900億円を見込む
- 営業損益は、売上減に伴う利益減があるものの構造改革効果などにより、前四半期比51億円増となる160億円の黒字を見込む
- 四半期純損益は、営業黒字の拡大に加え、モバイル事業売却実現に伴う特別利益を計上することなどにより、240億円の黒字を見込む

I. 2014年3月期 第2四半期 決算概要

2014年3月期 第2四半期 決算概要

- 半導体売上高は、例年第2四半期にピークを迎える季節性要因もあり、前四半期比9.6%増の2,077億円
- 営業利益は、売上増に伴う利益増などにより、前四半期比11億円増の109億円

2013年3月期

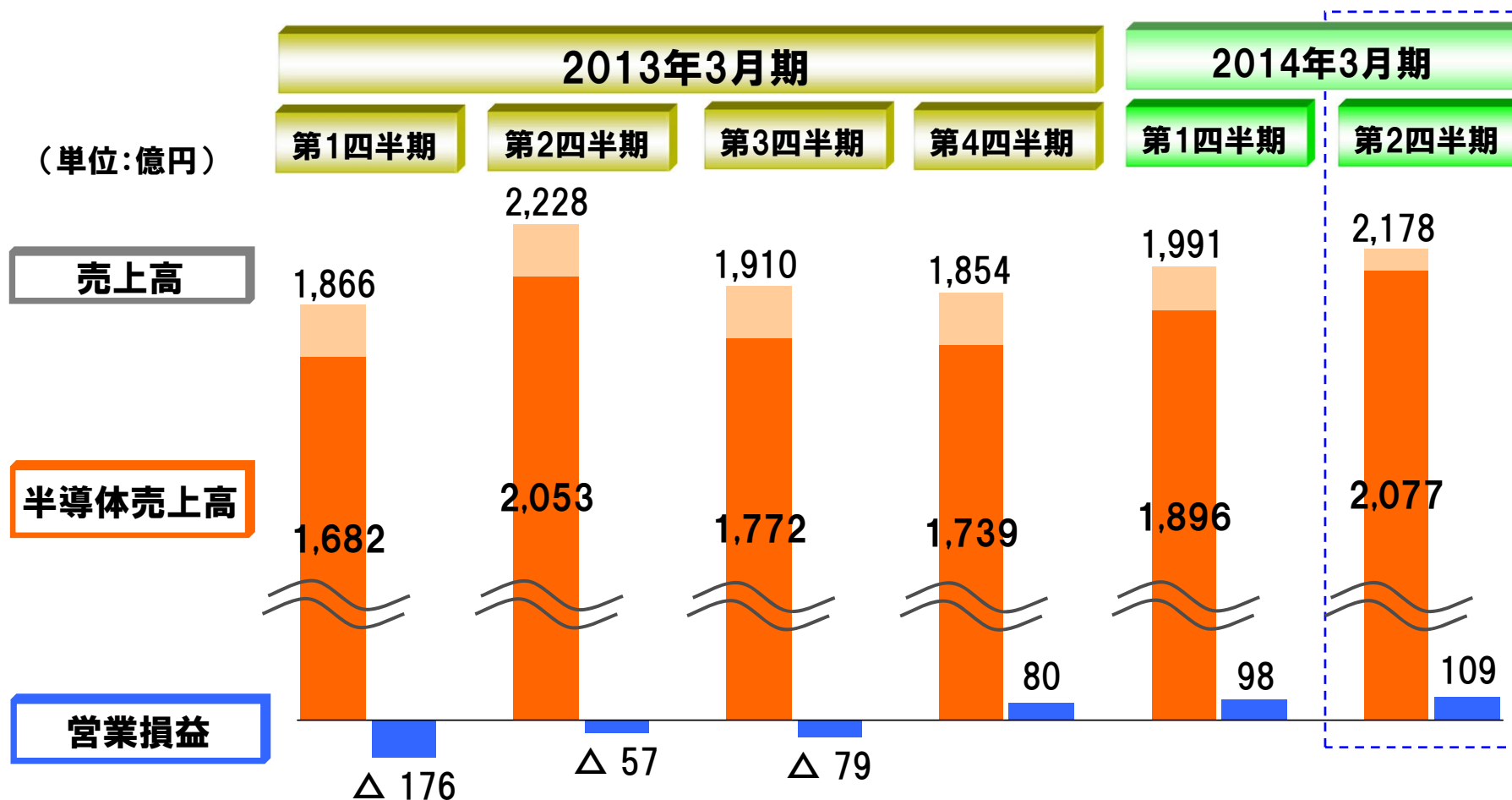
2014年3月期

(単位:億円)

	第2四半期	第1四半期	第2四半期	前四半期比	想定比(8/2公表)
売上高	2,228	1,991	2,178	+188 (+9.4%)	+89 (+4.3%)
半導体売上高	2,053	1,896	2,077	+181 (+9.6%)	+73 (+3.7%)
営業損益	△57	98	109	+11	+67
経常損益	△68	85	54	△32	+54
四半期純損益	△943	△40	△88	△48	+272
(参考)特別損益	△859	△87	△112	△25	+208
1US\$=	79円	98円	98円	±0円	±0円
1ユーロ=	98円	127円	130円	3円 円安	1円 円安

四半期業績推移

- 半導体売上高は、前四半期比で9.6%増、前年同期比では1.2%増
- 営業損益は、これまで実施した構造改革効果もあり、3四半期連続で黒字を確保

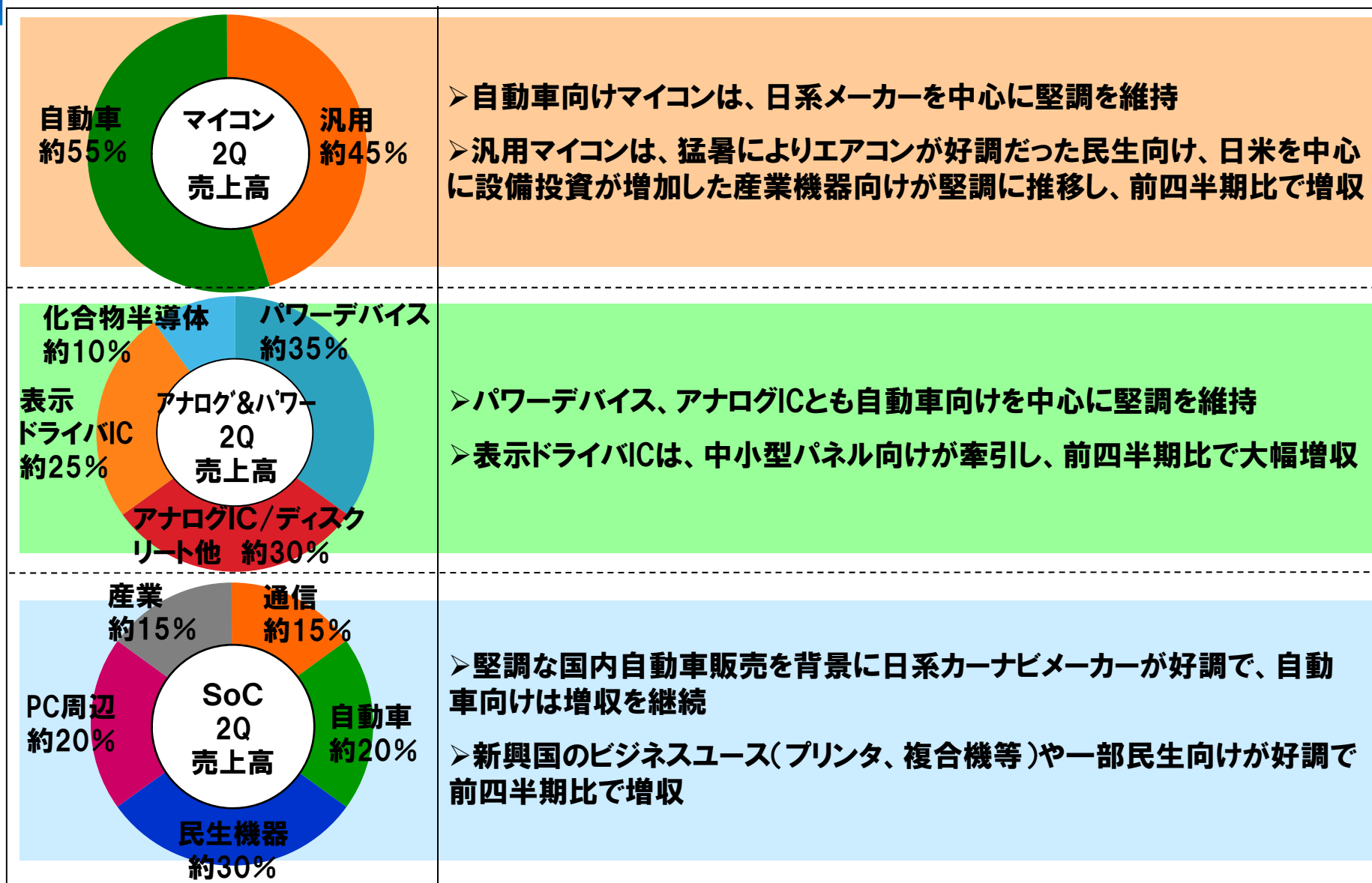


2014年3月期 第2四半期 半導体売上高の事業別状況①

- マイコン、アナログ&パワー半導体、SoCのいずれも前四半期比で増収

(単位:億円)	2013年3月期	2014年3月期			
	第2四半期	第1四半期	第2四半期	前年同期比	前四半期比
半導体売上高 計	2,053	1,896	2,077	+24 (+1.2%)	+181 (+9.6%)
マイコン	809	856	889	+79 (+9.8%)	+32 (+3.8%)
アナログ&パワー 半導体(A&P)	681	653	723	+43 (+6.3%)	+70 (+10.8%)
SoC	550	368	453	△97 (△17.6%)	+85 (+23.0%)
その他半導体	13	18	12	△1	△6

2014年3月期 第2四半期 半導体売上高の事業別状況②

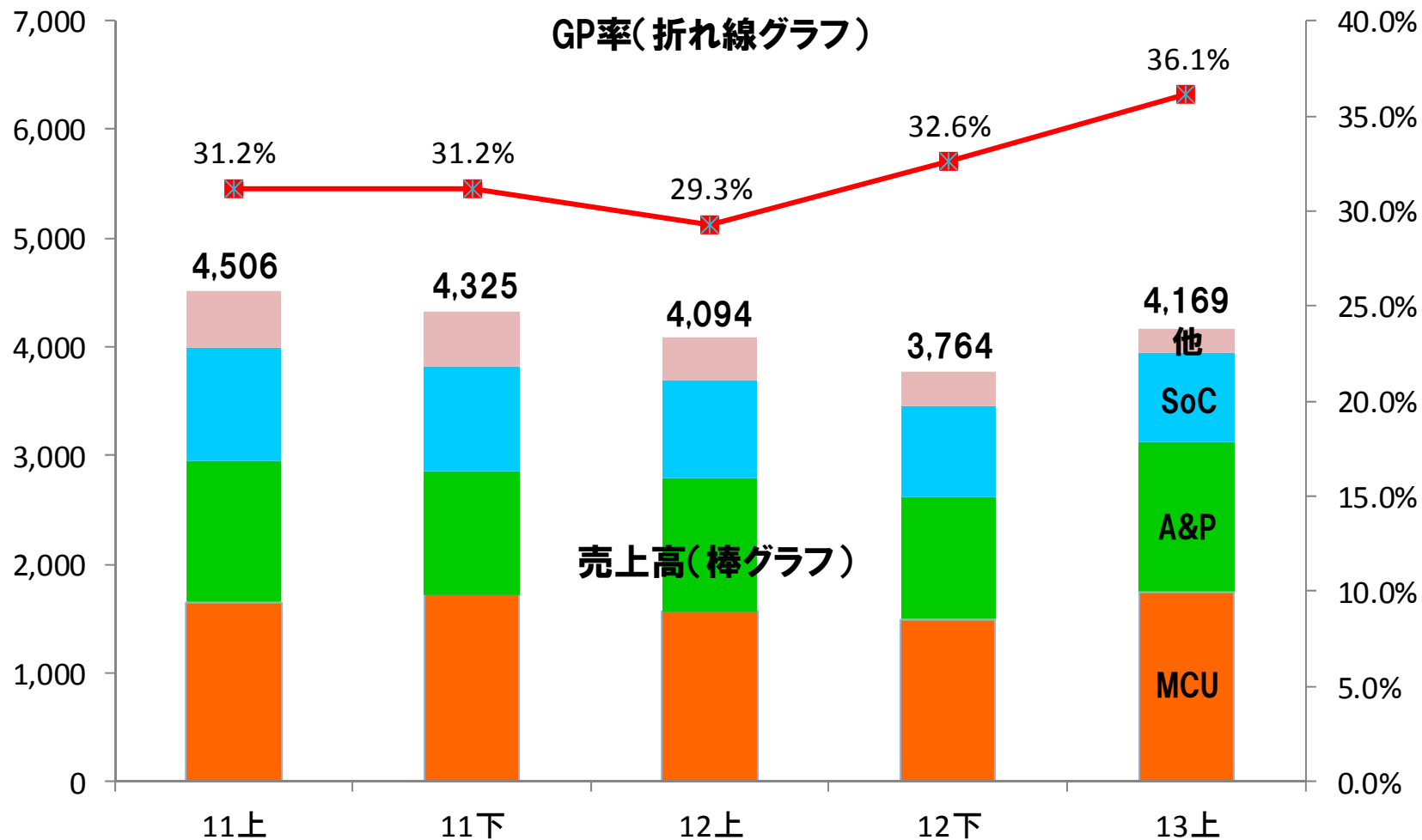


売上高とGP率の推移

■ 売上高は微減も固定費削減施策などにより、GP率は改善傾向

(単位:億円)

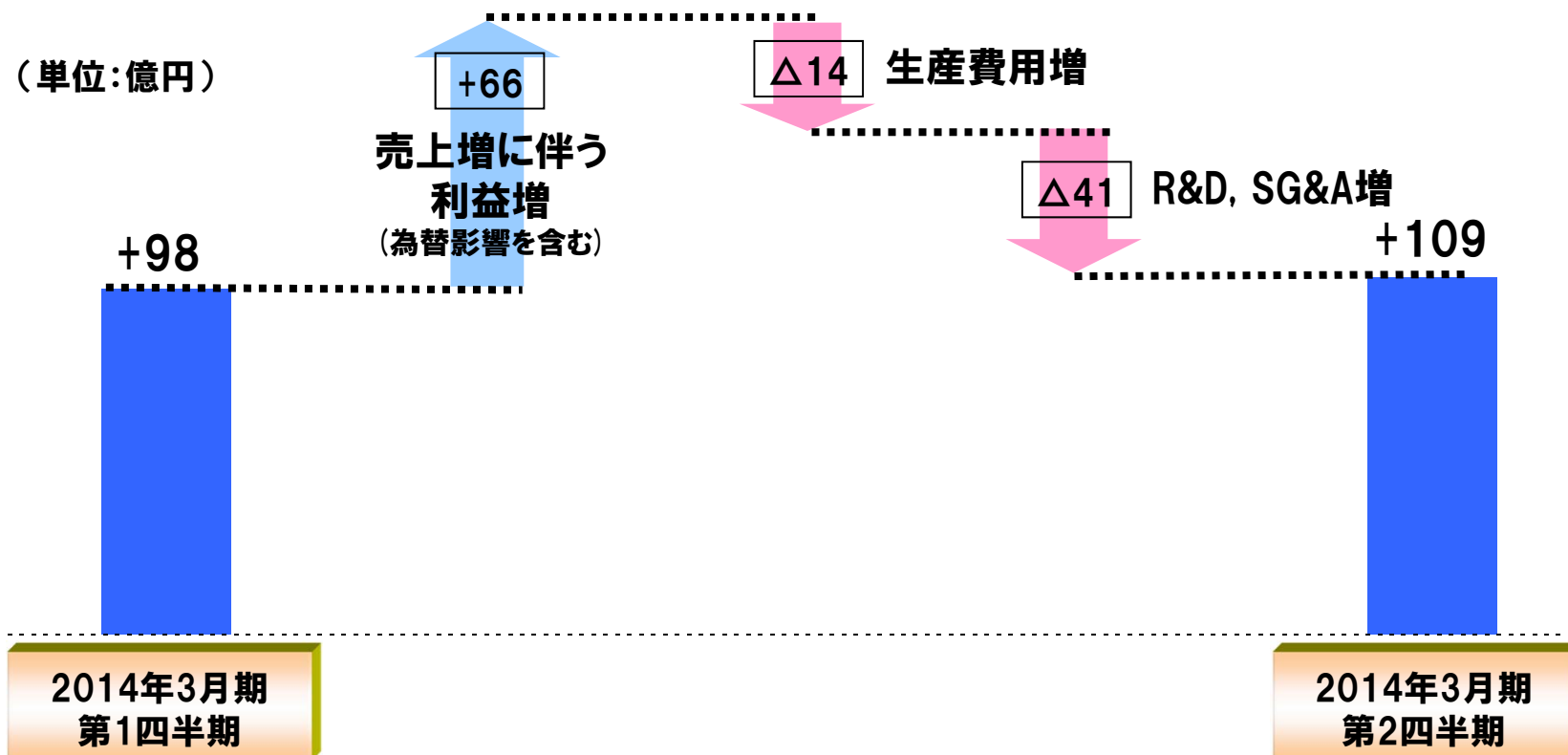
(単位:%)



GP率:売上高総利益率

2014年3月期 第2四半期 営業損益（前四半期比）

- 一部生産費用増などがあったものの、売上増に伴う利益増により、前四半期比で11億円改善し、109億円の黒字を確保

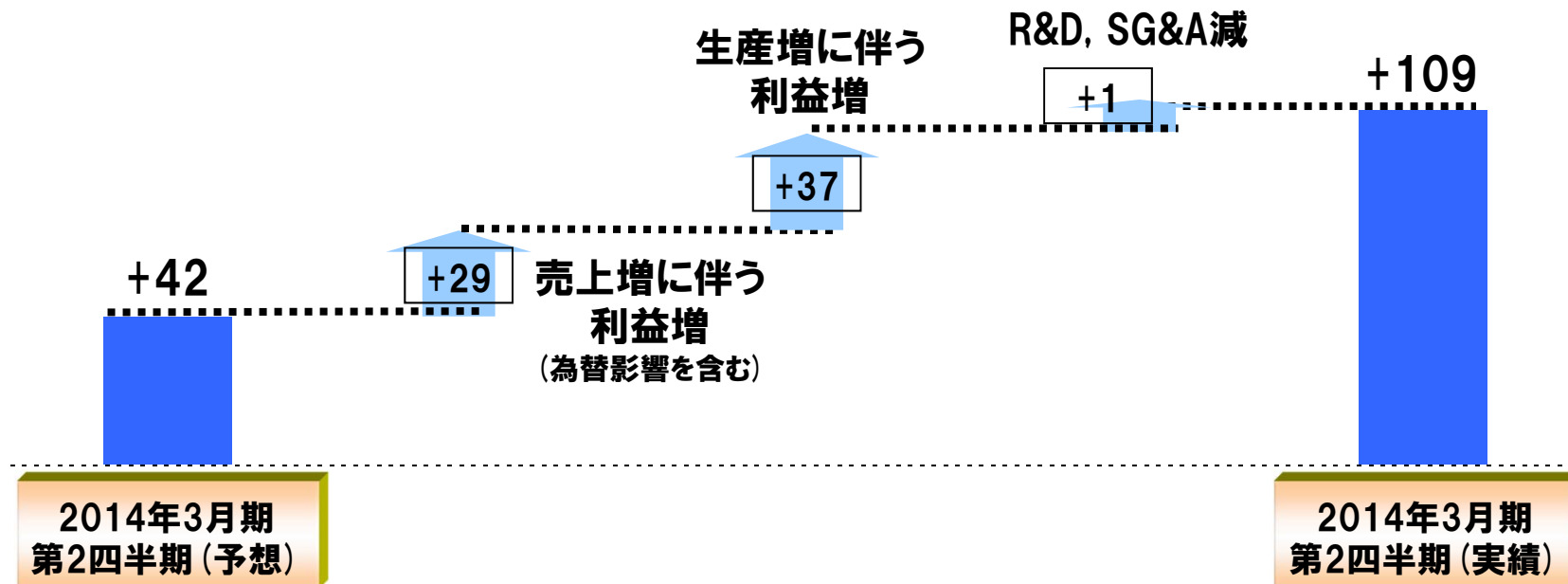


*R&D:研究開発費 *SG&A:販売費および一般管理費

2014年3月期 第2四半期 営業損益(8月2日予想比)

- 売上増、生産増に伴う利益増などにより、想定比では67億円改善

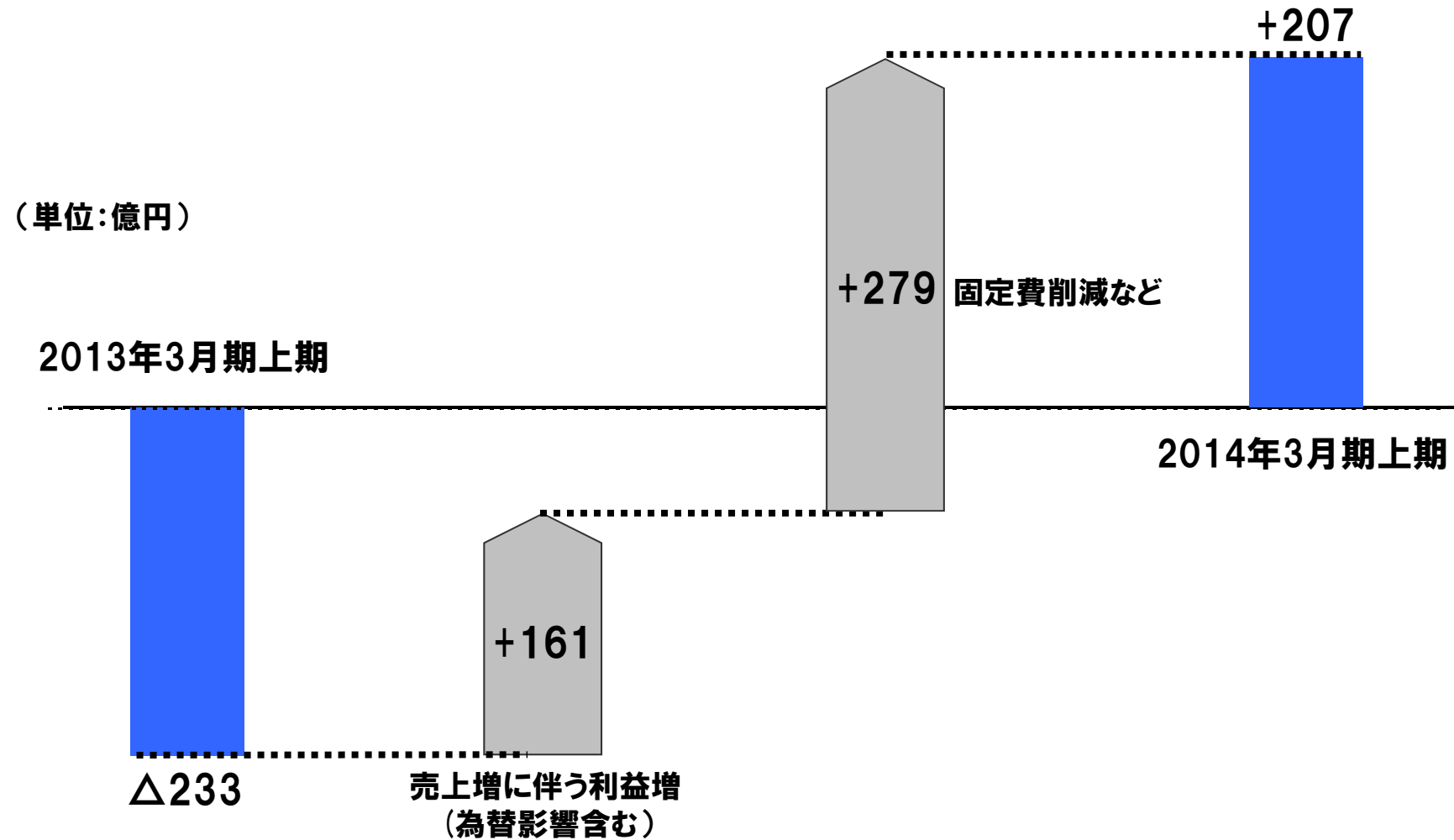
(単位:億円)



*R&D: 研究開発費 *SG&A: 販売費および一般管理費

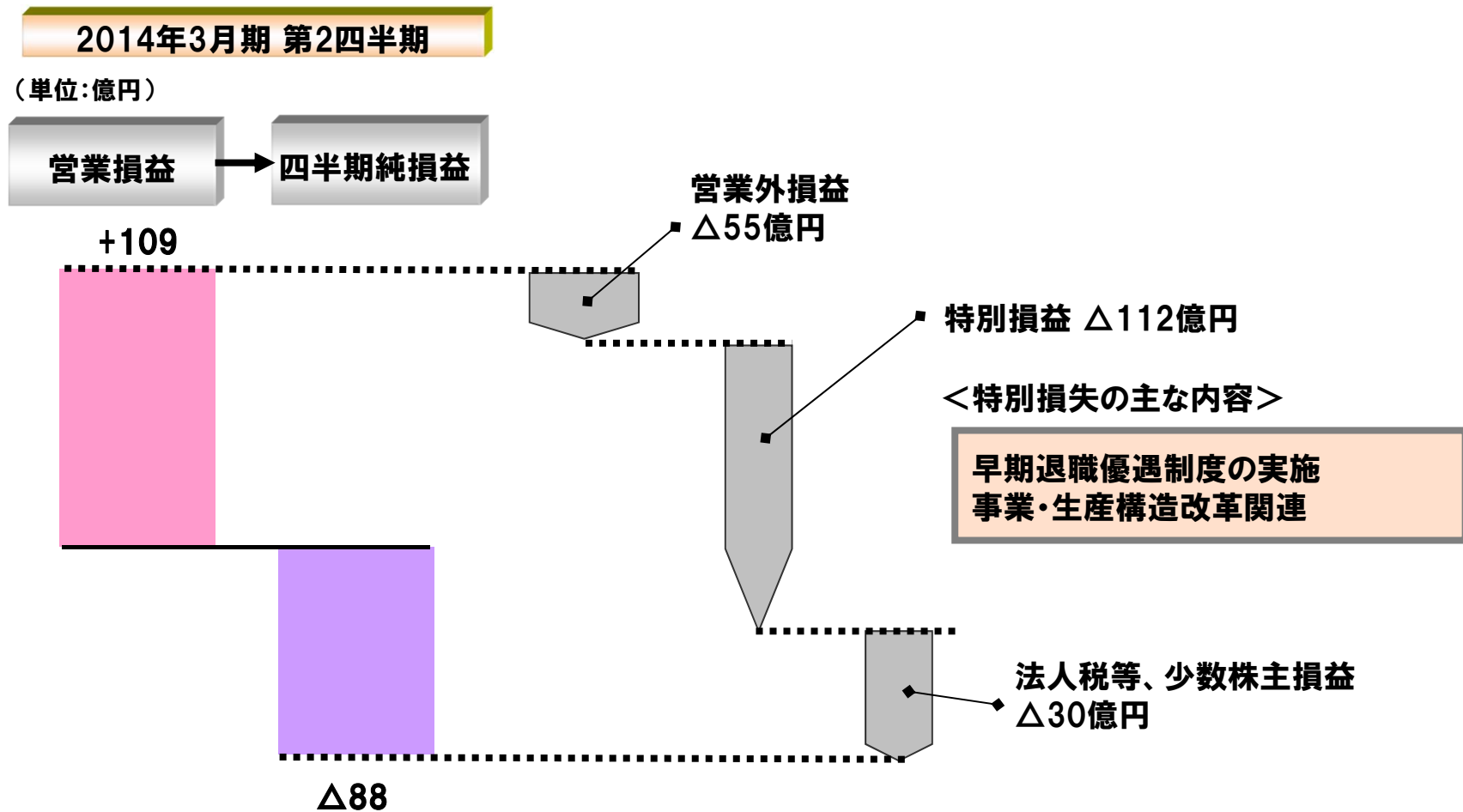
2014年3月期 上期 営業損益(前年同期比)

- 構造改革による固定費削減により、収益性は着実に改善



2014年3月期 第2四半期 四半期純損益

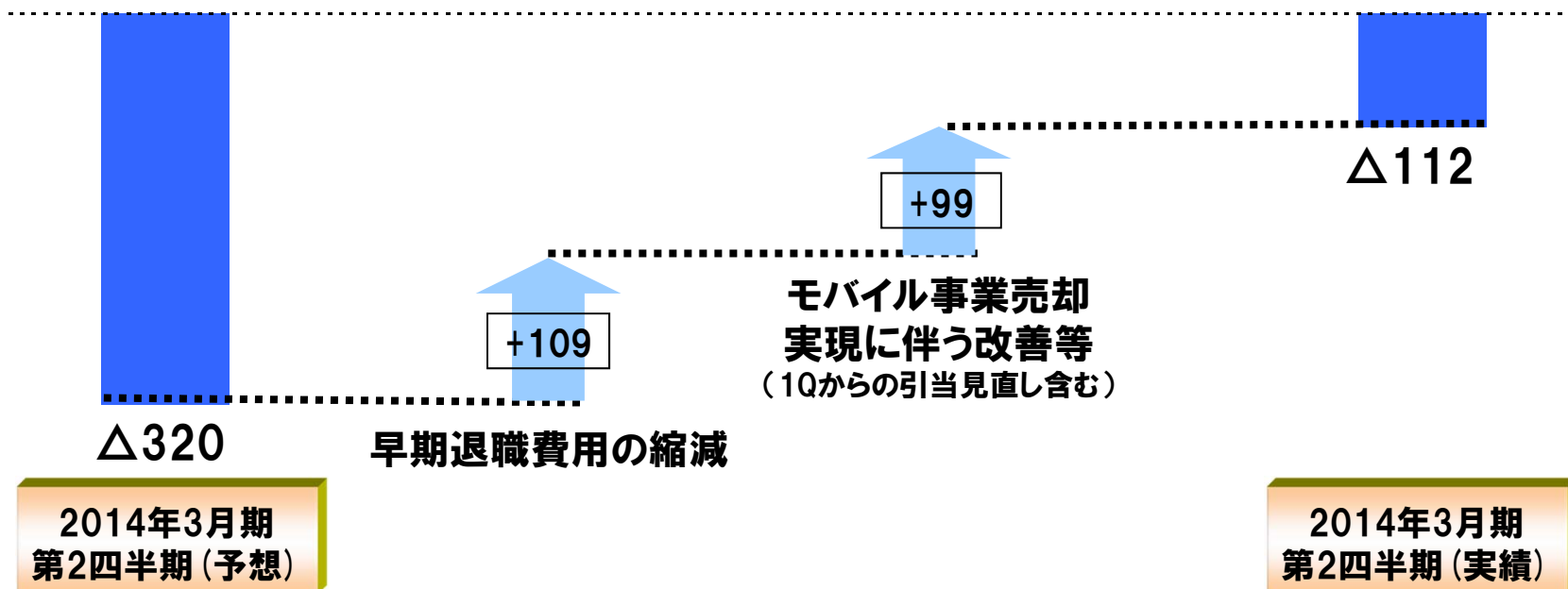
- 四半期純損益は、早期退職優遇制度や事業・生産構造改革の実施に係る特別損失を計上したことなどにより、88億円の赤字を計上



2014年3月期 第2四半期 特別損益(8月2日予想比)

- 早期退職費用の縮減やモバイル事業の売却実現に伴う費用減などにより、8月2日に公表した業績予想における特別損益からは208億円の改善

(単位:億円)



バランスシートの状況

■ 1,500億円の第三者割当増資の払込完了により、バランスシートは大幅に改善

(単位:億円)	13/3末	13/6末	13/9末
総資産	6,691	6,684	7,962
うち 現金及び現金同等物	777	958	2,393
うち たな卸資産	1,513	1,437	1,367
負債合計	5,912	5,881	5,744
うち 有利子負債	3,064	2,994	2,874
株主資本	758	719	2,130
純資産合計	779	803	2,218
D/Eレシオ(グロス)	4.59倍	4.41倍	1.38倍
D/Eレシオ(ネット)	3.43倍	3.00倍	0.23倍
自己資本比率	10.0%	10.2%	26.2%

(注)①現金及び現金同等物:「現金及び預金」と「有価証券」の単純合算値から「預入期間が3ヶ月を超える定期預金」を控除しております。

②有利子負債:「短期借入金」、「1年内返済予定の長期借入金」、「リース債務」、「長期借入金」

③自己資本:「株主資本」、「その他の包括利益累計額」 ④D/Eレシオ(グロス):有利子負債/自己資本

キャッシュ・フローの状況

- 昨年10月末に実施した早期退職優遇制度に係る最終の支払いがあったものの、営業キャッシュ・フローは、3四半期連続で黒字を確保
- 翌第3四半期には本年9月末に実施した早期退職優遇制度に係る支払いを予定、フリー・キャッシュフローの黒字定着へ向けて構造改革施策を継続

(単位：億円)	2013年3月期				2014年3月期	
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期
営業活動による キャッシュ・フロー	△181	46	△475	69	284	90
投資活動による キャッシュ・フロー	△107	△98	△61	△166	△25	△65
フリー・ キャッシュフロー	△287	△52	△536	△97	259	25

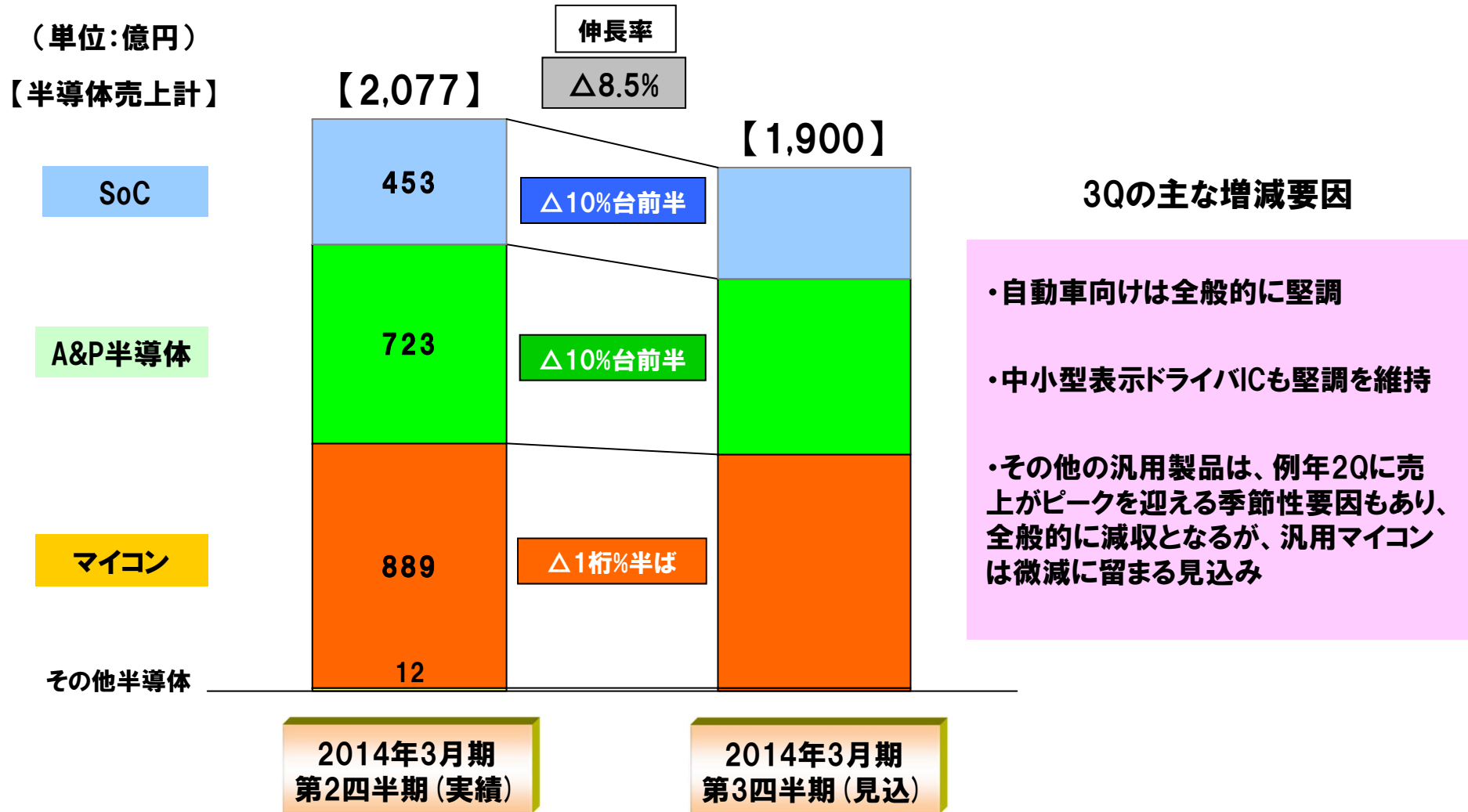
II. 2014年3月期 第3四半期 連結業績予想

2014年3月期 第3四半期 連結業績予想

- 営業損益は、売上減に伴う利益減があるものの、構造改革効果などにより、前四半期比51億円増となる160億円の黒字を見込む
- 四半期純損益は、営業黒字の拡大に加え、モバイル事業売却実現に伴う特別利益を計上することなどにより、240億円の黒字を見込む

(単位:億円)	2013年3月期	2014年3月期				
	第3四半期 (会計)	第2四半期 (会計)	第3四半期 (会計)	前年同期比	前四半期比	第3四半期 (累計)
売上高	1,910	2,178	1,970	+60	△208	6,139
半導体売上高	1,772	2,077	1,900	+128	△177	5,873
営業損益	△79	109	160	+239	+51	367
経常損益	△111	54	130	+241	+76	269
四半期純損益	△466	△88	240	+706	+328	112
(参考)特別損益	△328	△112	145	+473	+257	△54
1US\$=	79円	98円	97円	18円 円安	1円 円高	98円
1ユーロ=	102円	130円	130円	28円 円安	±0円	129円

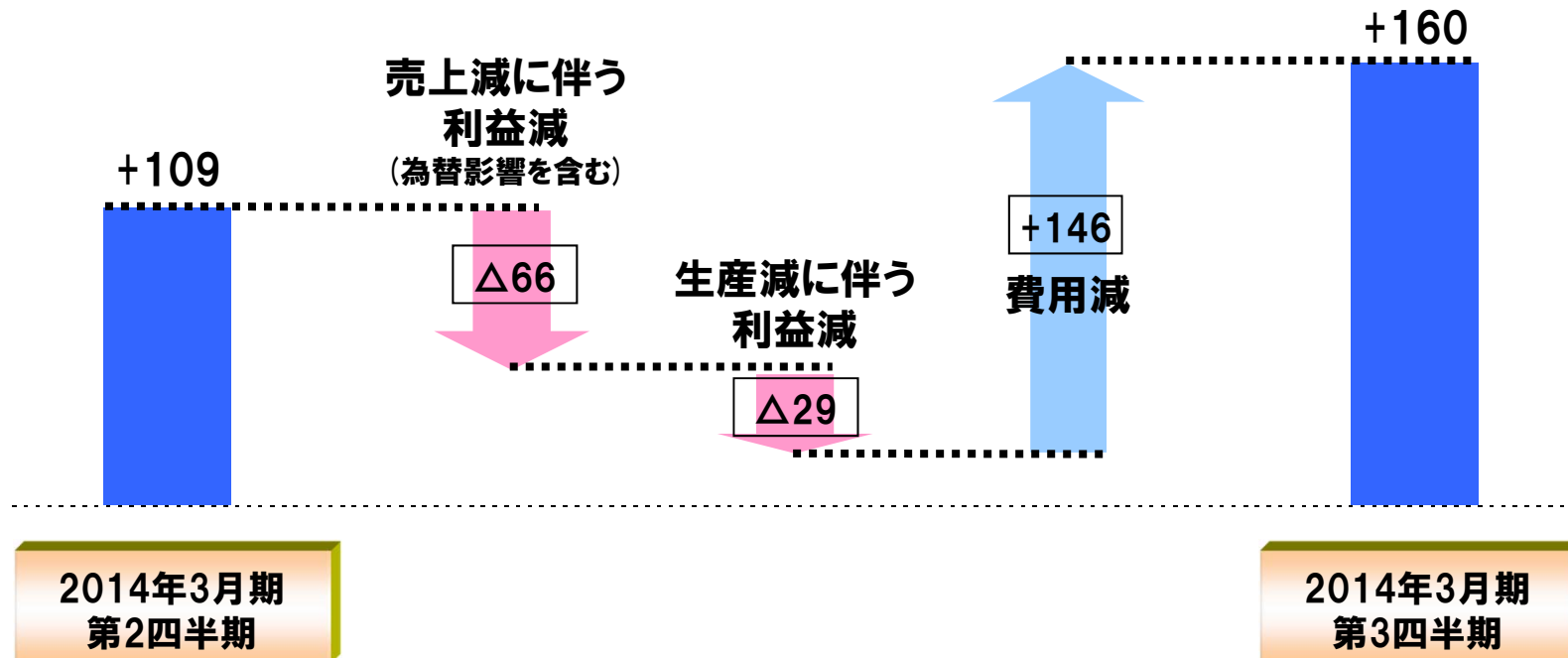
2014年3月期 第3四半期 半導体売上高 見通し(前四半期比)



2014年3月期 第3四半期 営業損益 見通し(前四半期比)

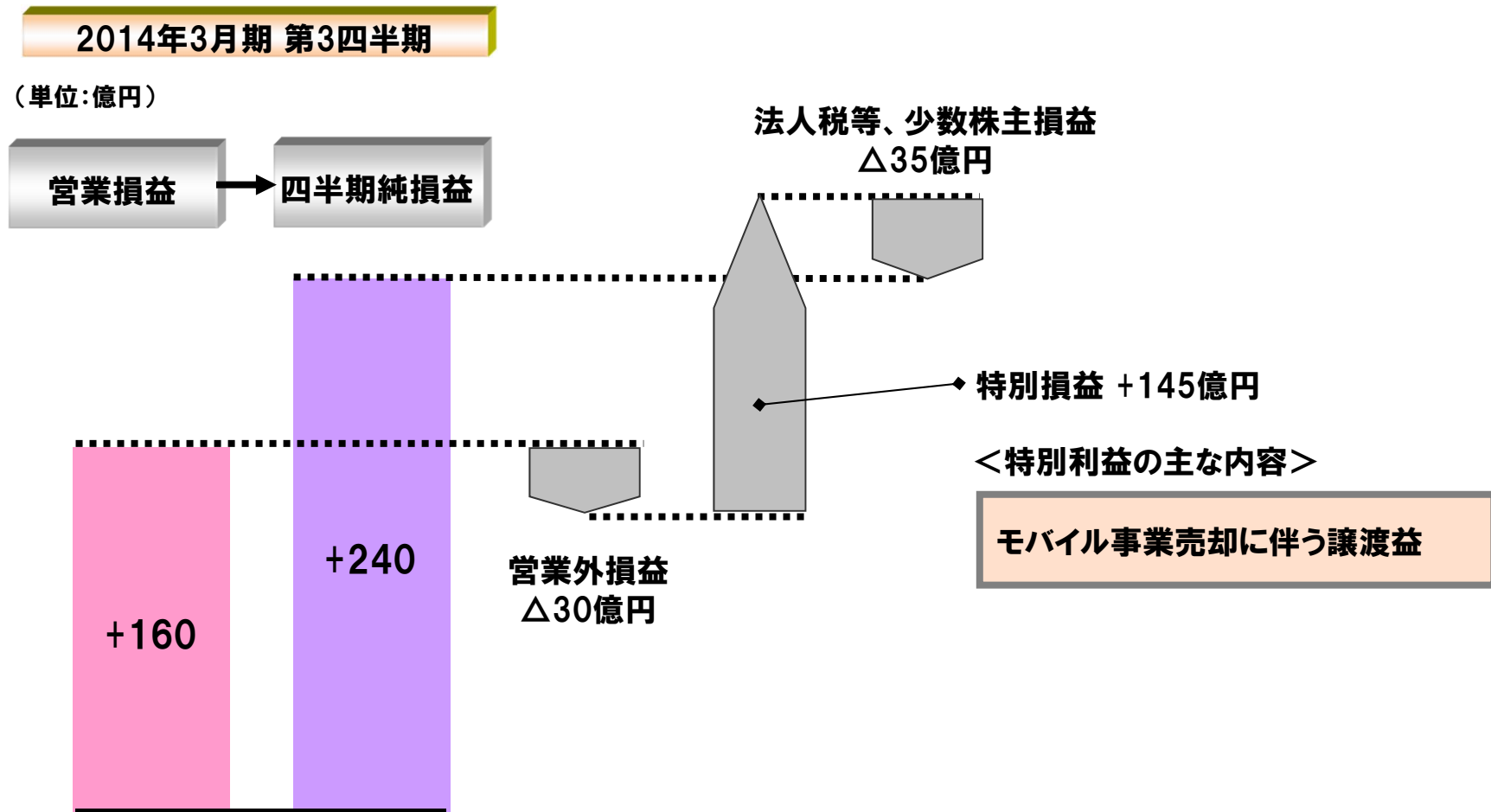
- 売上減に伴う利益減があるものの、構造改革効果などにより、前四半期比51億円増となる160億円の黒字を見込む

(単位:億円)



2014年3月期 第3四半期 四半期純損益 見通し

- 四半期純損益は、モバイル事業の売却実現に伴う譲渡益を計上することなどにより、240億円の黒字へ転換



(将来予測に関する注意)

本資料に記載されているルネサス エレクトロニクスグループの計画、戦略及び業績見通しは、現時点で入手可能な情報に基づきルネサス エレクトロニクスグループが判断しており、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、実際の業績等は、様々な要因により、これら見通し等とは大きく異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。実際の業績等に影響を与えうる重要な要因としては、(1)ルネサス エレクトロニクスグループの事業領域を取り巻く日本、北米、アジア、欧州等の経済情勢、(2)市場におけるルネサス エレクトロニクスのグループ製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、(3)激しい競争にさらされた市場においてルネサス エレクトロニクスグループが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを供給し続けていくことができる能力、(4)為替レート(特に米ドルと円との為替レート)の変動等がありますが、これら以外にも様々な要因がありえます。また、世界経済の悪化、世界の金融情勢の悪化、国内外の株式市場の低迷等により、実際の業績等が当初の見通しと異なる結果となる可能性もあります。

ルネサス エレクトロニクス株式会社

© 2013 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.